

氏名： 清田 淳子 (KIYOTA Junko)
所属： 人間文化創成科学研究科
学位： 応用言語学博士
職名： リサーチフェロー
専門分野： 年少者日本語教育、帰国子女教育、国語科教育
E-mail： kb5j-kyt@asahi-net.or.jp

◆研究キーワード / Keywords

年少者日本語教育／学習支援／内容重視のアプローチ／母語活用／教員養成

◆主要業績

- ・『言語少数派生徒を対象とした教科学習支援における指導ストラテジーの分析』平成18～19年度科学研究費補助金(若手研究スタートアップ)研究成果報告書(研究代表者 清田淳子)
- ・「支援の授業」と「在籍級の授業」との学習内容の連続性」『多言語・多文化研究』第13巻、全国語学教育学会バイリンガリズム研究部会 44-61.
- ・「言語少数派生徒同士の学び合いを活かした学習支援の可能性の探求」平成17～19年度科学研究費補助金(萌芽研究)研究成果報告書『母語を活用した教科学習の過程と結果の分析—日本語を母語としない児童生徒の場合—』(研究代表者 岡崎眸) 131-157.
- ・「学習支援としての日本語指導を研究するために」『母語・継承語・バイリンガル教育研究会紀要』第4号、母語・継承語・バイリンガル教育研究会 48-67.

◆研究内容 / Research Pursuits

- (1) 言語少数派生徒の取り出し指導を担当する教師が、どのような指導ストラテジーを用いて「国語」学習支援を行っているか、対象とする子どもの発達段階や日本語力の違い、教師の属性の違いをふまえて明らかにする。
- (2) 「日本語非母語話者年少者教育学」を受講する学生の認識の変容に着目し、教職をめざす学生が、日本語を母語としない子どもの教育について基本的な理解や問題意識をもつためにはどのような働きかけが必要かを探る。

◆教育内容 / Educational Pursuits

- 1、「非母語話者年少者教育学特論」(前期:学部/大学院)子どもの第二言語習得や母語保持をめぐる諸理論など、年少者日本語教育に関わる知見について、グループ討議を交えながら講義を行った。
- 2、「非母語話者年少者教育学演習」(後期:学部/大学院)日本語非母語話者年少者に対する教科学習支援の実践的モデルについて、具体的な教育技術上の工夫を演習形式で学べるようにし、また、実践者をゲストとして招くなど現場の声を採り入れながら授業を展開した。

前/後期いずれの授業においても、学部生、院生、研究生、科目等履修生(現職の日本語教師等を含む)など多様な背景を持つ受講生の参加を得て、年少者日本語教育に関わる理論と教授法について、「問い」を学ぶことを目指しながら講義や演習を行った。

◆研究計画

- ・在籍級の教科学習場面における、言語少数派生徒と日本人生徒との協同学習の可能性を追求する。
- ・国際学級担当者が教科取り出し指導で用いるストラテジーと、在籍級の教科担当者の指導ストラテジーとの比較分析を通して、在籍級の授業のどこに言語少数派の子どもは困難を感じているのかを、指導ストラテジーの相違の観点から探る。

◆メッセージ

日本語を母語としない外国から来た子どもたちを対象とする教育では、教科学習を視野に入れた日本語教育のあり方が模索されています。「日本語非母語話者年少者教育学特論」「日本語非母語話者年少者教育学演習」の授業では、非母語話者年少者の第二言語発達や教科指導、母語保持、さらには教科学習支援の実践的モデルについて学びます。

子どもの発達には「待ったがない」と言われます。たとえ言語や文化的背景が異なっても子どもたちの学びや発達を保障していくことはその社会の大人たちの責任です。教職に就くことを考えている人も、日本語教師として既に活躍されている人も、留学生の方も、さらには自分自身が帰国生である人も、言語少数派の子どもたちとどのように関わっていけばよいのか、一緒に考えていきたいと思えます。